



<CAM フィリピン・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2019年9月11日

フィリピンの2019年上半期海外直接投資

フィリピン統計庁（PSA）によると、2019年1～6月期の外国直接投資認可額は、前年同期比2.1倍の955.6億ペソ（約1,969億円）となった。（昨年2018年は、通年で1,790億ペソ（約3,759億円）であった）。現政権の外資誘致策が評価されている。

国・地域別では、首位がシンガポールで約393億ペソ（前年同期比18.2倍）、2位が日本で約135億ペソ（同+3.8%）、3位がオランダで約114億ペソ（同9.6倍）だった。他方中国からは急減、約11.2億ペソ（-同38%）。南シナ海のフィリピンの排他的経済水域（EEZ）での事故等の影響もあり、中国からの投資受入れが進んでいない。

産業別では、「製造」が約411億ペソ（前年同期比87.5%、シェア43.1%）、「電気・ガス・蒸気・空調供給」が約367億ペソ（同57.2倍、シェア38.4%）と伸びている。

国・地域別海外直接投資認可額

	国・地域	2019年1-6月	前年同月比
1	シンガポール	39,301	18.2倍
2	日本	13,471	3.8%
3	オランダ	11,398	9.6倍
4	タイ	8,473	149.7倍
5	米国	5,678	24.5%
	合計	95,560	2.1倍

（単位：百万ペソ、1フィリピンペソは約2.06円）

出所：PSAのデータをもとにキャピタル アセットマネジメントにて作成

以上